

2011 年度事業報告

1. 荒川クリーンエイドの運営

荒川やその支流のゴミ拾い活動「荒川クリーンエイド 2011」を実施し、様々な団体と主体間連携を推進した。

[主な実施事項]

○荒川クリーンエイド【数えるゴミ拾い】

荒川クリーンエイド 2011 では、127 会場がエントリーされ、109 会場で実施、参加者の合計は 11,223 人となった。

○特定テーマのゴミ拾い

漂着ゴミの発生抑制を目的とした「荒川ペットボトル大捜索 2011！」や「マイボトル de ゴミ拾い。」キャンペーンを実施。前者は通年、後者は 9 月以降に実施。

○実施説明・体験会の開催

4 月 23 日と 9 月 10 日の 2 回開催し、荒川クリーンエイドの趣旨や実施方法について説明した。また、指導者育成として、午前に屋外での体験会、午後に屋内での説明会を開催して、新たな実施団体の担当者と実施方法を具体的に共有した。

○主催会場の運営

5 月 29 日に「24 時間テレビ」チャリティー委員会、10 月 22 日に下平井水辺の楽校、10 月 30 日にふるさと清掃運動会実行委員会と、それぞれ共催で荒川クリーンエイドを実施した。

○活動のサポート

企業などの実施団体の要望に応じて、事務局スタッフを中心に活動をサポートした。

○報告会の開催

2011 年の実施概況とゴミデータの集計等を報告するとともに 2 月 17 日に連絡会に併せて開催した。また、2011 年に特に大きく貢献いただいた団体・企業に功労賞表彰を授与した。

2. 生物多様性の保全

荒川での健全な生態系の保全を目指して、自然地の維持管理の仕組み作りや希少種の保全を目的に実施した。

[主な実施事項]

○里川創造プロジェクト

多くの人に荒川の自然環境の現状を理解いただくとともに荒川への関心を高めることを目的に、小松川自然地において、外来種の除草やヨシ刈り、自然環境教室などを実施した。一般を対象に参加者を募り 5 月 29 日には、「24 時間テレビ」チャリティー委員会との共催清掃後に自然環境教室を実施し、10 月～12 月には、民間企業を誘致しての外来種の除草等を展開した。年間計 7 回、902 人が参加。また、当該活動が、東京都「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」に採択され、里川小松川自然地協議会を設置。

○絶滅危惧種の復活プロジェクト

ヒヌマイトトンボの復活を目指し活動を本格始動した。春先から 8 月までの間、計 10 回にわたり、現地で生息個体数や生息環境のモニタリングを実施し、雄 1 匹、雌 4 匹の個体数を確認した。また、生息環境においては、夏場に水が枯渇する期間が続くなど懸念される点が判明した。さらに、11 月 26 日、3 月 24 日は、本プロジェクトに関心のある市民団体や企業、行政職員を募り、生息地に隣接するヨシ原において一斉にヨシ刈りを行い、生息環境の整備に努めた。

3. 環境教育の推進

河川環境への関心を高めるような支援を、学校等の児童、親子参加者、企業の新入社員に対して実施した。

[主な実施事項]

○小中学校の「総合的な学習の時間」の支援

荒川下流の自然地において、荒川クリーンエイドの実施を含めた水辺の学習をサポートした。6校合計25回程度のサポートを実施した。

○青少年育成

2011年度JT青少年育成に関するNPO助成を活用し、荒川下流の自然地で、下平井水辺の楽校等流域団体と連携しながら、子ども・親子を対象とした自然体験・環境学習イベントを8回開催した。また、小中学生を対象に、河川ゴミへの理解を深める学習パンフレットを作成した。

○自然環境教室

荒川クリーンエイド等の実施日に、その参加者を対象に、荒川の自然に親しみ、生物多様性への理解を深めるプログラムを、年間9回開催した。

○社員研修

東日本大震災の影響で3件が中止になったものの4、5月には7件の新入社員研修を企画立案した。2012年の春の企業の新入社員研修の実施に向け、5社の実施申込を受け、プログラム開発を進めた。

4. 水質調査の実施

希望団体を募り、パックテスト試薬やマニュアルなどを配布して、春と秋に水質調査を実施した。

[主な実施事項]

○身近な水環境の全国一斉調査への参加

6月5日(日)午前10時を中心に、荒川本流と流域各地の身近な川や池などで、温度とCOD(低濃度)の水質調査を実施した。荒川下流域計41地点(本流14地点、支流その他河川23地点、池などの止水4地点)で調査を実施。全国一斉調査であるCODに加えて、pH、アンモニア態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、透視度の調査を実施。データをとりまとめて全国水環境マップ実行委員会事務局に送付した。また同実行委員会に参加して、今後に向けての検討を行った。

○秋のクリーンエイド時の水質調査

荒川クリーンエイド実施時に、荒川本川およびその支川での調査を実施した。調査は、温度、COD、pH、アンモニア態窒素、硝酸態窒素、亜硝酸態窒素および、透視度などとした。

5. 流域連携

荒川流域下流の市民団体や行政、ひいては、上流や源流の市民団体と連携して、自然地の在り方や流域全体の自然再生に取り組むことをはじめ、荒川流域の抱える課題の解決を検討した。

[主な実施事項]

○自然地管理検討会への参加

荒川下流河川事務所が主催する「荒川下流部自然地管理・運営検討会」に当フォーラム代表理事が委員として参加し、今年度は2つのモデル地区について自然地管理のあるべき方向について検討がなされており、計5回の検討会を経て、行政へ提言を行った。

○「荒川自然懇談会」を通じた荒川下流河川事務所との協働

当フォーラム役員が多数参加する荒川自然連絡会と荒川下流河川事務所との間で行っている「荒川自然懇談会」を官民協働の場とし、モニタリングについての勉強会を手始めに市民参加による自然管理を進め、荒川下流部に親しみやすい自然地を広めていくことに寄与した。

○荒川流域再生プロジェクトへの参加

NPO 法人荒川流域ネットワークを中心に同プロジェクトが実施する「荒川流域再生シンポジウム」を共催し、「アユ遡上支援作戦」に参加し、流域連携による「魚の行き交う川作り」を推進した。

○荒川源流エコツアーの企画

台風の影響で実施はできなかったが、9月3～4日に、1泊2日で荒川の源流部・秩父市大滝へのエコツアーを企画し、原生林散策・鉱山見学などの見学の他にもゲストを招いての上下流交流を予定した。

6. 他セクターや全国・世界とつながる活動

埼玉と東京、ひいては、荒川流域内外の他のセクターとの連携を通じて、全国・世界とつながる活動を展開した。また、国土交通省河川局や環境省などの省庁、その他セクターなどの連携も必要性を判断したうえで連携策を検討した。

[主な実施事項]

○埼玉県河川環境団体連絡協議会および川の再生交流会への参加

埼玉県河川環境団体連絡協議会に参加。埼玉県が主催し、同協議会が協力して開催された「川の再生交流会」に参加協力し、埼玉県内での連携を図った。

○国土交通省河川局のワーキングへの参加

国土交通省河川局河川環境課「河川ゴミの状況把握・発生抑制に関するワーキング」に委員として参加し、全国の河川に展開できる調査手法の検討について協議した。

○一般社団法人 JEAN との協力

荒川クリーンエイド各会場のゴミ調査結果を提出して、一般社団法人 JEAN を通じて、世界の海洋ゴミ調査として結果が反映された。

○その他

飲料メーカーを構成組織に持つ業界団体、国土交通省の外郭団体などと対話を行い、ゴミの発生抑制、全国の河川での市民活動の活性化について議論を行った。

7. 広報・情報発信

ホームページやニュースレターなどの広報媒体に加え、テレビ、新聞など外部の広報媒体も活用した。また、活動の参加者を募集すること、ゴミデータを活用し社会へ問題提起することを念頭に情報を発信した。

[主な実施事項]

○ポスター・リーフレット（荒川クリーンエイド関連）

関東建設弘済会の助成金により作成した。作成したポスター・リーフレットは実施団体および沿川の自治体を通じて広報を推進した他、リーフレットは沿川の駅のラックに置き、駅構内でのポスターの掲示をお願いするなど積極的に活用した。

○サンクスレター（荒川クリーンエイド関連）

荒川クリーンエイド参加者に、参加への感謝の気持ちを伝えるとともに、数えるゴミ拾いで集計したゴミのデータを社会に発信してゴミの発生抑制をめざしていることを伝えることを目的に、春のみ実施団体を

通じて配布した。

○報告集（団体関連）

助成金により昨年に引き続き全ページをカラーとし、新たにスタッフからのメッセージを伝えるなどよりわかりやすい内容への工夫を加えて制作した。

○ホームページ（団体関連）

初めて見た方にも荒川クリーンエイドの活動内容や社会的意義、実施案内などをわかりやすく的確に伝えられるよう随時情報を更新した。

○ニュースレター（団体関連）

年度内に3回（4月、9月、1月）発行した。なお、4月号のみフルカラーとした。また、特集を組み込むなどテーマ性を重視した紙面を工夫した。メール配信希望者にはメール配信を始めた。

○Eメールニュース（団体関連）

毎月1日に発行し、各シーズン旬のニュースを迅速に発信した。

○プレスリリース

参加者募集やゴミの発生抑制を目的に9種類のリリースを発信した。

8. 組織運営

事務局運営体制の強化・柔軟化および、自然地理管理などの新たな事業計画の積極的な立案・推進、新たな助成金の獲得などを実現した。

[主な実施事項]

○事務局組織体制

事務局においては2名の専従職員と2名の非専従職員により運営した。秋以降週1,2回程度、東京都市大学の学生インターンの協力を得て円滑な事務局業務を遂行した。

○関係者会議

2月17日に関係者会議「荒川クリーンエイド・フォーラム2011 報告・連絡会」を開催し、荒川クリーンエイド実施団体および新規参加団体など様々な方面の方々と国際ゴミ調査と向かい合うべく国内NPOは何を目指すべきか、といった議論を行った。

○ファンドレイジング

団体Tシャツやバンダナを作成し、販売物品を整備した。

○ブランディング

日本水大賞国土交通大臣賞を受賞し、読売新聞の全国版に大きく掲載された。

2011 年度活動報告の概要一覧

事業	活動名	実施日・会場等	概要
1 荒川クリーンエイドの運営	春のクリーンエイド	4～8月	荒川流域で年間 109 会場で実施
	秋のクリーンエイド	9～12月	参加者 11,223 人で実施
	荒川ペットボトル大捜索 2011!	4～12月	ペットボトルの種類別個数の調査
	実施説明会・体験会	4月24日、9月10日	活動の趣旨・実施方法の説明等 説明会の前後に体験会を開催
	主催会場の運営	5月29日、10月22日、10月30日	他団体と共催
	報告会	2月17日	2011年の結果報告
2 生物多様性の保全	里川創造プロジェクト	5月～12月	生き物観察、外来植物の除草、ヨシ刈りなど 計7回を実施
	絶滅危惧種の復活プロジェクト	4月～翌年3月	個体数や生息環境のモニタリング調査実施 11月26日、3月24日にはヨシ刈りを実施
3 環境教育	小中学校環境学習支援	年間25回	水辺の環境学習を支援
	青少年育成	年間8回	荒川下流の自然地で親子のイベントを開催
	自然環境教室	年間5回	荒川クリーンエイド会場等にて開催
	社員研修プログラム	4,5月	7件で企画立案（うち震災関連で3件中止）
4 水質調査	身近な水環境の全国一斉調査	6月5日を中心に一斉調査 12月10日	荒川下流域(一部江戸川流域)56地点で実施 全国水環境マップ実行委員会参加
	秋のクリーンエイド時水質調査	10～11月 会場近くの橋 中央で採水・実施	約30地点で調査
	荒川源流エコツアー	9月3-4日秩父市大滝	荒天中止
5 流域交流	荒川流域再生シンポジウム	シンポジウム共催 8月及び2月	荒川流域ネットワークと連携した荒川流域再生プロジェクト活動
	荒川自然懇談会	計3回	荒川の河川ゴミや河川環境に関する行政への提言など
	荒川下流部自然管理・運営検討会	計5回	荒川下流のモデル自然地の活用検討
	埼玉県河川環境団体連絡協議会	2月4日	川の再生交流会に参加
6 他セクターや全国・世界とつながる活動	国土交通省河川局河川課ワーキング	6月28日	「河川ゴミの状況把握・発生抑制に関するワーキング」に参加
	一般社団法人 JEAN	春・秋にデータ提出	ゴミ調査結果を報告し、世界の海洋ゴミデータに反映
	ポスター・リーフレット	8月制作。ポスター1,000部 リーフレット2万部	クリーンエイド活動の周知、広報用
7 広報・情報発信	報告集	3月発行 1500部	カラー印刷
	ホームページ	随時更新	団体紹介、行事の案内・報告他
	ニュースレター	4,10,1月に発行	行事の案内・報告他
	Eメールニュース	各月号及び臨時号を含め 定期的に発信	行事の案内・報告他
	プレスリリース	年9回配信	メディアに対しての情報発信
8 運 営	第11回定期総会	5月15日	アモアホール
	理事会・運営委員会	随時開催	予算・決算の提案やACFの運営に関わる協議
	連絡会	2月17日	数えるゴミ拾いの意義について協議